

# 津の養豚場で豚熟

一万頭、殺処分に着手

# 陸自に支援要請

が確認されたイノシンは二十一頭に上る。

県は十四日、津市内の養豚場で豚熱（CSF）の感染を確認し、この養豚場での殺処分に着手した。飼育する約一万頭を全て殺処分する方針。県内の養豚場で豚熱が発生するのは昨年十二月以来となる。

県によると、この養豚場から十三日朝、県に「八頭の豚が死んでいる」との連絡があった。うち四頭に県が実施した検査は陽性で、生きている豚の一部でも陽性を確認。国の検査で十四日夕に感染が確定した。殺処分は少なくとも十日間を要する見通し。周辺の養豚場は既にワクチンを接種しているため、移動や搬出の制限はない。県は十四日夜の対策本部会議で陸上自衛隊第三十三普通科連隊に支援を要請した。この養豚場で陽性となつた豚は全て生後四十一七十

記者会見で、豚熱の発生を発表する鈴木知事＝県庁で

を確認し、この養豚場で  
る方針。県内の養豚場で  
(海住真之)

いるのが相次いで確認されてきたという。県は小動物などを介した

みてる。県が津市内で野生イノシシの調査捕獲を始めた昨年以降、この養豚場から半径十キロの範囲で感染

が確認されたイノシシは三十一頭に上る。

令和3年4月15日  
伊勢新聞